院長あいさつ



院 長
石崎　律子

令和７年度年報の発刊にあたり、日頃より当院をご支援いただいております地域の皆さま、医療・介護・福祉関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。

この一年を振り返りますと、医療を取り巻く環境は依然として厳しく、人材不足や物価高騰、医療制度の変化など、病院経営にとって決して平坦な道のりではありませんでした。それでも、「地域の皆さまに必要とされる病院であり続けたい」という思いを胸に、職員一人ひとりが日々の診療に真摯に向き合ってまいりました。

当院は二次救急医療機関として、24時間365日、救急患者を受け入れています。今年度も多くの救急搬送に対応し、循環器疾患や脳卒中など、一刻を争う患者さまの診療に力を注いできました。救急医療は、決して一つの診療科だけで成り立つものではありません。救急外来、ICU・SCUをはじめ、多くの診療科と医療スタッフが力を合わせることで初めて支えられています。

もちろん、当院の役割は救急医療だけではありません。整形外科では骨折や外傷だけでなく、高齢化に伴って増加する運動器疾患に対し、手術からリハビリテーションまで切れ目のない医療を提供しています。また、消化器分野では内視鏡検査・治療や消化器外科手術を積極的に行い、早期発見から専門的治療まで地域の皆さまの期待に応えられるよう努めています。それぞれの診療科が専門性を磨きながら連携し、急性期病院として総合力を発揮できることが、当院の大きな強みであると感じています。

医療技術は日々進歩していますが、医療の本質は今も昔も「人と人との信頼」にあると思います。最新の医療機器があっても、患者さまの不安な気持ちに寄り添う言葉や、ご家族への丁寧な説明に勝るものはありません。診察室や病棟で交わされる何気ない一言が、患者さまに安心を届けることも少なくありません。そうした温かい医療を積み重ねることが、地域から信頼される病院につながると信じています。

病院には「できればお世話になりたくないけれど、いざという時にはあってほしい」という、少し不思議な存在感があります。その「いざという時」に迷わず頼っていただける病院であり続けるため、私たちは医療の質の向上はもちろん、地域の医療機関や介護・福祉施設との連携をさらに深め、地域医療全体を支える役割を果たしてまいります。

この年報では、令和７年度の診療実績や各部門の取り組みをご紹介しています。当院の活動をご理解いただく一助となれば幸いです。

今後とも皆さまからのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。